

発行所 城北学園同窓会  
 東京都板橋区東新町2の28の1  
 TEL 03 (3956) 3157~9番  
 城北学園同窓会編集室  
 印刷 共立速記印刷株式会社



校訓  
 自主 勤勉 着実

# 六月一日に定例総会 ホームカミングを実施

定例総会の日程が来る六月一日(土)と決まりました。会場は前回と同じく母校城北学園の講堂で、終了後は、これも昨年と同じく食堂でホームカミングを予定しています。昨年の第一回のホームカミングは、旧制一回生、新制十八回生、新制三十回生と、高齢と若い世代の双方の卒業生を対象に実施しました。今年は、還暦を迎えた卒業生から早く招待してほしいという強い要望があったことや、お招きする先生方も高齢にならていることなどから、今回のホームカミングの対象者は年齢を優先して、旧制二回生(昭和二十一年卒)から新制十回生(昭和三十三年卒)までとなりました。



城北学園同窓会会長  
 杉崎 完夫  
 (旧二回・昭和二十一年三月卒)

## これからの同窓会活動について

去る平成十三年十月三十一日水曜日にサンシャインシティ・プリンホステルで、母校の創立六十周年記念祝賀会が、井上貴雄理事長、加藤健治校長、三原清司PTA会長と役員の方々、ほか多数のご来賓や現旧教職員をお迎えして盛大に行われた。この事は私たちが卒業生としては非常に嬉しい事であって茲に改めて創立六十周年のお慶びを申し上げます。

六十周年といえば、人生にとっては還暦を迎え、これまでの人生を一廻り廻り終えて、これから更に新しい人生に向かっての再出発をする年であり、赤い羽織りを着てその節目を祝うとされている。母校に於ても人生と同じようにこれからの将来に向かって七十五年、百周年と更に発展していかなくてはならない。我々卒業生も母校が更なる発展を遂げられるように、同窓会活動を通して協力していきたい。

最近の同窓会は一般情報によると、不況下でのオアシスとして団塊の世代など年配層の人気を集めている。また、若者を中心にインターネットの同窓会サイトの利用も急増しつつあり、人間関係がドライになる中、心安らぐ場としても見直されているようだ。同じ学校出身者がインターネットのサイトに登録し交流する「同窓会サイト」の利用者も増えているという。九



城北学園中学校長  
 加藤 健治

## 強い絆を求めて

今年十月十日程早く春が訪れ、報告したり、同窓会の開催日程の調整などに利用している。個人の登録は無料で広告収入で運営している。ライフデザイン研究所が一年前全国三千人を対象に行った調査では、「今後深めたい人間関係」として「学校、学生時代の友人」を挙げた人は三十八%に達し、その二年前の調査より十ポイント以上も増えている。これに対し「職場や仕事関係の人」は横ばい、「地域や近所の人」は減少している。これは不況下の殺伐とした人間関係の中、同窓会は安らぎを感じさせる貴重な集まりとされ、今後は学年やクラス全体、あるいは、気の合うグループで集まる傾向も強くなるであろう。これらの事を踏まえて城北学園同窓会の発展に努力していこうと思う。何卒皆様のご支援をお願い致します。

《定例総会》  
 日時 平成十四年六月一日(土) 午後三時より  
 会場 城北学園講堂  
 議題 平成十三年度活動報告  
 平成十四年度活動計画  
 平成十四年度決算報告  
 平成十四年度予算案  
 役員改選

《ホームカミング》  
 総会終了後、現旧の先生方をお招きし、旧制二回生、新制十回生の同窓生を対象にホームカミングを開催します。多数の皆様のご出席をお願いします。

## 同窓会総会に参加を



城北学園同窓会副会長  
 本庄 昭三  
 (旧二回・昭和二十一年三月卒)

一昨年十一月より副会長を引き受けることになりました。鋭意同窓会のために働きたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。さて、総会のことですが、毎年開くことが同窓会が活動していることの証になっていっていると思います。総会により一年間の活動に区切りをつけることができ、新たな活動計画によりその持統が約束されることになると考えるからです。このように、総会は同窓会にとって非常に大事なものであると思ひます。ところが、ふらりと同窓会

## 同窓の環を抜けよう



城北学園同窓会監事  
 稲垣 靖男  
 (旧三回・昭和二十二年三月卒)

一昨年同窓会の監事を委嘱されましたので、微力ながらお手伝いできれば、同窓会にかかわっております。同窓会のこの二年たらずの活動を振り返ってみたいと思ひます。昨年五月の総会は、前回より大きく上回る百十名の出席のもとで開催され、三つの卒業年度の会員とそれら卒業生にかかわる現旧教職員をお招きして開かれたホームカミングには、総会出席者も参加して五百五十名が集まりました。これは、同窓会を守り立てよう、同窓会を盛り立てよう、同窓意識を共有すること、人数の上からも、世代の拡がりからしても難しいか

方もお呼びしています。今年も同様な企画が予定されているものと思ひます。昨年の年度の選定は、卒業後十五年、三十五年、五十六年であり、今年が卒業後四十四年、五十六年が選定される予定です。このような呼びかけに際しては、出席を勧めます。また、その機会に、更に親交を深める機会をセットされるのも良いことと思ひます。それから、このように呼びかけが無くても、卒業生は、総会・懇親会に出席できるわけで、毎年総会に参加する会員が増えることを望みます。そのような方が同窓会の発展につながるものと考えます。みんなで総会に参加し、同窓会を盛り上げてください。

### 高校卒業式・中学終了式を挙行

去る三月一九日に高校卒業式が挙行され、三九一名の卒業生が新たに巣立っていきましました。大学入試結果も順調で、彼らの将来の活躍が大いに期待されています。当日は杉崎完夫会長が出席され、同窓会を代表して新同窓会員となる卒業生に向かって祝辞を述べられました。

三月二二日には中学三年生の修了式が行われ、新制三四回生（昭和五十七年三卒）島村徹也氏（埼玉大学助教）の記念講演会が催されました。

### 同窓会活動の活性化に向けて



城北学園同窓会副会長  
平石正美  
(旧四回・昭和二十三年三月卒)

杉崎完夫氏が同窓会長になつて二年、その間、母校「城北学園」は進学校としての地位を著実に固め、昨年は創立六十周年記念を迎えるなど益々の隆盛かつ堅実な道を歩み、卒業生一人として鼻高き思いであります。

一方で昨一年の同窓会を顧みるに、再生・活性化への道を確実に実施することができなりました。

### 尋ね人！

#### 昭和四十二年三月高三生で三重県立大・水産学部を受験した人

鹿児島の入佐さんという方から、事務局に次のような依頼がありました。お心当たりのある方は、事務局まで御一報ください。

私は鹿児島の入佐と申しまして、ロケットで有名な内之浦町のすぐ近くで、医者をしておりまして、歌舞伎町の惨劇をテレビで観まして、S42年春の城北の「ア・さん」にお礼を申し上げたくお便りさしあげた次第です。

昭和四十二年三月、私は鹿児島県鹿屋高校から医学部を受験し、津市の旅館で三重県立大学水産学部を受験した城北高校の「ア・さん」と同窓会つの子の彼は「新宿は怖いと

### 城北同窓会幹事長の挨拶



城北学園同窓会幹事長  
佐藤武久  
(九回・昭和二十二年三月卒)

同窓会幹事長の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。つつがなくお過ごしのことと拝察申し上げます。

早いもので幹事長の任を拝命以来、既に二年の月日が経てまいりました。この間、従来の名ばかりの同窓会を如何に実のある同窓会に転換出来るかが、幹事長の成すべき目目の一つでありました。それは数十年前にも及ぶ脆弱な同窓会組織を如何に再編成するかに掛かっておりました。為に組織の基盤整備に取りかかりました。一つには代表幹事会の設立です。総会以前に議

### 初めてのクラス会



八回  
鈴木 渉  
(昭和三十一年三月卒)

高校卒業後四年前にクラス会をはじめに行いました。同窓年の中でも私達のクラスはいわゆる「A組」でした。四クラスありましたが、A組は、クラス会に絶対の実績がないと言われてきました。ところが、昨年の六月に同じように事野、体育、江口（社会）の各先生をお招きし二回目のクラス会を実施しました。

そのクラス会の幹事をして気がついたことがあります。一つはクラス会開催の往復はがきの案内を出しても相手の住所は届いていないのですが、まったく返信はきませんでした。

### 旧制一回生の集いなど

旧一回

### 成澤博夫

(昭和二十年三月卒)

旧制一回生の集いについては、創立五十周年記念誌に泉川久君が平成三年度までの寄稿（同誌三八・三九頁）したので、ここでは、平成四年度以降について述べさせていただきます。

平成四年から九年までは毎年一月末に、また、十年以降は三年末に、また、それそれ銀座「高松」において「城北の会」を開き、大抵四十名前後の参加を見ている。平成九年までの一月末を十年波で一月末は寒いので、暖かい方が良からうということになり、五月の連休を外し、五月末ということにした次第である。

旧制一回生の昭和二十年卒業時の人数は、一六七名とされたが、分っている物故者が既に五十六名しかたつて、単純に計算しても一二一名の生存者（実際はもっと少ない可能性大）となる。

### 思い出の城北

#### 井上 繁

(昭和二十四年三月卒)

ラクビー部創部者一人として今日あるのは、初代監督の丸山先生を始め歴代監督の増田・鈴木・寺沢の諸先生、城北一期生の脇先輩・加部吉男君の兄（日大医学部ラガーマン）初代OB会長長谷宗君・二代目会長長土屋君の指導の賜物であると、同期の広木・土橋両君と常々感謝しております。

創部三十周年・五十周年と盛大に迎えられたことは、芝崎・清野・土田・吉永・諏訪・鈴木・清水・吉田・尾崎・和田の諸君、若手渡辺哲郎・小林政徳、実行委員の献身的な努力によるものと頭の下がる思いです。

### 創立六十周年 記念式典・祝賀会

十月三十一日  
サンシャインプリンスホテル

昭和十六年に深井鑑一郎、井上源之丞両先生が創立された学園が昨年六十周年を迎え、創立六十周年の記念式典・祝賀会が十月三十一日午後五時から、サンシャインシティプリンスホテルで学園役員、現旧教職員、PTA、同窓会員約二百名が出席して盛大に開催されました。

また、十月三十日、三十一日の二日間にあつて学園講堂で全生徒と二〇〇名近いお母さん方を対象に記念講演会が開かれました。

昭和十六年に深井鑑一郎、井上源之丞両先生が創立された学園が昨年六十周年を迎え、創立六十周年の記念式典・祝賀会が十月三十一日午後五時から、サンシャインシティプリンスホテルで学園役員、現旧教職員、PTA、同窓会員約二百名が出席して盛大に開催されました。

また、十月三十日、三十一日の二日間にあつて学園講堂で全生徒と二〇〇名近いお母さん方を対象に記念講演会が開かれました。

- 大久保太郎 勲 等瑞玉章
- 香西 久 勲 等瑞玉章
- 平成二年秋 紫綬褒章
- 平成十年秋 勲四等旭日小綬章
- 木村 栄 勲 勲五等瑞玉章
- 平成十一年春 勲五等瑞玉章
- 平成十三年三月九日逝去
- 小島 三男 勲 勲五等瑞玉章
- 平成十一年春 勲五等瑞玉章
- 平成十二年一月四日逝去
- 成田 章 勲 勲等瑞玉章
- 平成十一年秋 勲 勲等瑞玉章
- 水野 篤行 勲 勲等瑞玉章
- 平成十一年秋 勲 勲等瑞玉章
- 山本 康 勲 勲等瑞玉章
- 平成九年春 藍綬褒章

# 六年ぶりの学校生活



四十七回・和田 悠

(平成七年三月卒)

高校から城北に入り、一九九五年三月に卒業したわたしは、六年ぶりに教育実習生として、二週間の「学校生活」を母校で送った。

「そうね、なんだい、うるさいよ、聴いとれ。高校一年生のときの担任で、ごつい体格に似合わないなんともいえないやさしい眼のままで、吉田正美先生は健在で、僕たちが教わったところと同じくめいづばいに授業をしていた。いつでも、あのときの場所にもどれば変わらない人がいる。なんだか、心が休まった。転勤がない私立の強みだろう。もちろん、生徒も基本的には変わっていない。あのときの私を前にして、実習生の私が授業を教えている。不思議な感覚だった。

実習期間は、職員室に席をあたえられ、城北の「先生」として遇される。職員室や教壇の側から「かつてのわたし」である生徒を把握し、かつて教わったこともある先生を職場の一員としてこれまでよりも近くに感じる経験は、スリリングだった。特に第一週目は、こうやって自分たちの先生からは見られていたのか、あるいは、生徒のときは分らないかたけれども、こんな一面が先生にはあったのか、などの発見の連続だった。

教員室にいて、まず印象に残ったのは、先生の会話が生徒の成績の面に集中していることだ。「こんな出来の悪いクラスはじめてだ」とか「あいつは本当に出来ないんだよ」とか。テストが多くなつたせ

いか、先生方がテストの採点処理に追われている。生徒の「生活」において、学校が占める割合は圧倒的で、そのうち勉強が占める割合は少なくないだろう。生徒は試験に追われ、家ではお手伝いする暇もなかなかないだろうし、親も手伝うぐらいなら勉強しなさいというかもしれない。政府は男女共同参画社会というけれど、学校教育に家庭科は科目として導入されたけれど、城北生の生活の構造は、男女の性別役割を変化させる方向にはない。

実習中、ある学年で生徒の不祥事があった。生活指導を主に担当されているのは、受験科目にはない「体育」の先生だが、親や当事者の生徒と何度も話をしながら話し合ったりと、職員室から見るとその奔走ぶりが大変さを実感させられた。学校生活は、家庭生活と切っても切り離せない。どこまで家庭生活に立ち入るのか、という線引きの問題は残されるが、生徒と全体的に向き合うためには、その生徒の生活を総体として把握する必要がある。学校は勉強を教えるだけの予備校じゃない！教科の先生が生徒を学力、しかも偏差値や点数化できる範囲での学力を基準に生徒との関係を切り結ぶ傾向にあるなかで、生活指導の先生の方が、生徒と正面から向き合っている印象を受けた。

私は、在学時代は、新聞委員会の委員長だったが、私が卒業してから実質的に休部状態になった。しかし、実習期間の二週間のうちでなんと復活させたいと思つてきた。そのことをクラスによびかけると、担任をもつた一年C組の何人かが興味を持ってくれて、放課後、図書館で城北新聞の編集にむけて集まつてくれた。新聞は、教育実習の最終日に発行した。新学期が始まって、二箇月がたつてしたが、生徒は新聞の編集作業を通して、教室ではないインフォーマルな場ではじめて、自分たちのことを語りあひ、お互いがお互いの個性を発見していったようだった。

生徒と生徒とが勉強を超えてつながりあう場が部活動である。そして、そこでの仲間が一生ものになる。部活動が以前に比べて盛んになったかどうかは、わからないが、確かに補習は盛んになっていく。先生が朝の補習に生き生きとなつている。人数次第だが、補習の場が生徒と生徒、生徒と先生をつなぐ場になりうるだろうし、私たちのころに比べて追試や補習が充実している、徹底して基礎学力を身に付けさせようという学校側の配慮は、うらやましくも大切な実践だと思ふ。

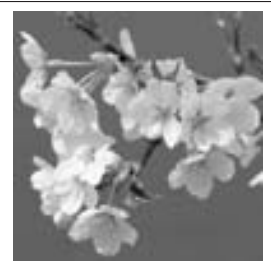
ただ、ひとつ気になるのは、補習が上から、ある場合には強制的に行われていることだ。私は高校二年から三年にかけて、何人かによびかけ、英語の講師の先生や古文の立花先生に補習をお願いした。自ら補習募集のポスターを作

り、各教室に張りについた記憶がある。古文のポスターには「東上線で夏目雅子に似た女の子をみつけた、なぐさめにもみばや」と思った。人間を育てる、受験を超えた、立花の古文補習」とか勝手にキヤッチコピーをつけては喜んでた。補習という受験勉強をとおしてのつながりの場であつたとしても、こちら側から仕掛けたかつた。生徒の主体性を手離したくなかつたのだと、いまに思ふ。

城北の進学校化を押しとどめる機運は、いま、ない。だとすれば、教職員だけではなく、生徒もふくめて、勉強とは、いい大学に入るための手段ではなく、主権者となるための「目的」であること、教室とは、教師から生徒への知識の一方的な伝達場ではなく、教師と生徒がそれぞれお互いの多様性を認め合う生きたあわれの場であること、こういう基本的な「学び」への「飢」を持ちつづけ、絶えず母校を、母校にかかわるものが自己点検する以外にはないであろう。

もちろん、同窓会会員だつて、ささやかながら、母校にかかわるもの一人だ。自己点検を許す、寛容さが城北の「よさ」だとは、誰もがいうことだ。このよさは、そこに安住していたならば、すぐに崩れていってしまう、もろいものであることも忘れてくれない。

(慶應義塾大学社会学研究科 修士課程)



## 旧制二・三回生、六月に同期会

旧三回・正木 昭太郎

(昭和二十二年三月卒)

今年も六月に九段会館で同期会を開く。毎年六月の第二か第三週の土曜日、会場は九段会館と決めている。

定期的に開くようになったのは、昭和五十七年からで、今年で十九回目を数える。

戦後、中学校が改正され、修業年限五年制度が復活して、私たちは昭和二十一年三月卒業の四年修了の旧二回生と、昭和二十二年三月卒業の五年修了の旧三回生に分かれた。そのために、同期会は卒業年度でなく、昭和十七年四月入学の同窓というくりにしている。

毎年、五十数年前にタイムスリップして、よくしゃべり、よく飲み、よく食べて、九段会館の人たちから、お世辞か第三週のお土産、会場は九段会館と決めている。

定期的な開くようになったのは、昭和五十七年からで、今年で十九回目を数える。

戦後、中学校が改正され、修業年限五年制度が復活して、私たちは昭和二十一年三月卒業の四年修了の旧二回生と、昭和二十二年三月卒業の五年修了の旧三回生に分かれた。そのために、同期会は卒業年度でなく、昭和十七年四月入学の同窓というくりにしている。

毎年、五十数年前にタイムスリップして、よくしゃべり、よく飲み、よく食べて、九段会館の人たちから、お世辞か第三週のお土産、会場は九段会館と決めている。

## 第十四回生 卒業四十周年同期会を開催して

十四回・平林 義彦

(昭和三十七年三月卒)

平成十三年三月二十四日(金)午後六時より、銀座東武ホテルにて同期生七十二名・先生七名を集めて、第十四回生の同期会を開催されました。早一カ月過ぎ、記念写真ができてきた今日振り返ってみます。と、やってよかったと心から思っております。長期にわたり非常に厳しい日常生活が続いている昨今、四十年ぶりに同期会を開こうかという気になったのは、平成十一年の九月に学園の講堂で開かれた学園同窓会総会に出席し、その年の忘年会に酒を飲みながら同期三名で話題にしたのが初めでした。本当にやる気があつたかと言うと、ただ昔を思い出して、昔話したらそのくらいのことではいつでもできる気がし

て、同期の顔もすっかり忘れて、同期の顔を軽く覚えて実行計画をたてた訳です。

平成十二年の三回生の同期会を開こうと決めて声をかけたところ、十二名が来てくれ、その趣旨を披露しました。出席する確率は三人に一人だと思つておりました。我々の時代は十年九クラスで総数五百五十名、実行委員は一人五十名に算になりますが、皆さん仕事に忙しい年代なので困難はあきらかでした。したがって、名簿作成に当たり住所不明の人は一応はずし、二百名は連絡可能であろうと判断し、その分だけハガキをだすことで話し合いがつき、実行内容の趣旨の案内状を作ったのが平成十二年十二月のことでした。

年賀ハガキで、四十年ぶりの同期会を予定していること、また、それに先駆けて学園の施設で決起大会を開きたい旨を連絡しました。

平成十三年一月二十日に決起大会を開きました。四十名は集まりましたが、当日の出席は十四名でした。それらの人々に二百枚のハガキを分けて、一人でも多く集まってもらえるよう連絡してもらいました。開催日・費用等は多数決で決めましたが、二月十五日を締め切りとして出した案内ハガキの返事が毎日毎日気になりました。二月末までに八十一名より出席の返信が来て、二名は連絡がとれませんでした。何でも最初が大変なものです。少数ながら、卒業してからも切れることなる付き合いが、何とも言える同期がいたから、何とか第一歩が開けたのだと思ふます。「本当によく



頑張つた、そして「また時間がたつてから懐かし話したい」というのが現在の心境です。ありがとうございます。

地集合の現地解散で、参加者二十八名。この一泊旅行に、仙台にお住まいの巨理梧郎先生(歴史)をお招きした。これがきっかけになり、六月は九段会館に集まり、秋に一泊旅行をするようになる。

※ 平成八年十一月二十三日 山寺と天竜市内観光をし、天竜温泉に一泊。翌日は羽黒山と周辺をまわる。仙台にお住まいの巨理先生をお招きした。山寺の急な石段を羽黒山と天竜温泉を、身軽に登り降りされる先生の元気を、一同びびり。ちなみに大正四年のお生まれで、八十七歳になられる。

※ 平成十二年十月二十二日(二十五日) 茨城の五浦に新年会を兼ねた一泊旅行を、サロンプラスを借り切つて行う。参加者十二名。

※ 平成十年十月十日 学園の大町山荘を利用していただいた。朝九時に新宿西口をサロンプラスで出発。東電高瀬川テプロ館大町山荘、大町山荘に到着。参加者二十三名。

※ 平成十一年十月三日 山寺と天竜市内観光をし、天竜温泉に一泊。翌日は羽黒山と周辺をまわる。仙台にお住まいの巨理先生をお招きした。山寺の急な石段を羽黒山と天竜温泉を、身軽に登り降りされる先生の元気を、一同びびり。ちなみに大正四年のお生まれで、八十七歳になられる。

※ 平成十二年十月二十二日(二十五日) 茨城の五浦に新年会を兼ねた一泊旅行を、サロンプラスを借り切つて行う。参加者十二名。

# 大学入試結果

## 三年連続 東大210名を超える！

二〇〇二年の大学入試も終わりました。今年も、本校生は現役、浪人ともに着実な成果を収めてくれました。特に注目すべきは、東京大学に現役、浪人合わせて三年連続して二〇名を超える成果を出してくれたことです。本校もいよいよ新たな時代に突入しました。また、東京工業大学、一橋大学、京都大学でもそれぞれ昨年に匹敵する合格者が出ました。

◎国立大学

大学名	計	平成14年			
		文		理	
		現	浪	現	浪
北海道	5			3	2
東北	7	1		4	2
筑波	3			1	2
埼玉	4			3	1
千葉	9			9	
東京	21	4	4	7	6
京大	3	2		1	
東工	14			10	4
一橋	13	10	3		
電通	3			3	
京農工	11			7	4
京芸立	2	1		1	
横浜国	5	1		3	1
金沢	2	1			1
京都	3		1	2	
大阪	1			1	
京都阪立	10	3	1	4	2
その他国立	23			9	14
合計	139	23	9	68	39

◎私立大学

大学名	計	平成14年			
		文		理	
		現	浪	現	浪
青山学院	15	2	3	5	5
学習院	20	11	5	3	1
慶應義塾	94	40	14	30	10
国際基督教	1		1		
芝浦工業	22			12	10
上智	22	2	6	7	7
中央	37	9	9	9	10
東京理	120			81	39
日本	41	6	10	13	12
法政	34	11	7	10	6
明治	45	26	3	7	9
立教	33	9	7	11	6
早稲田	112	22	16	48	26
その他私立	114	4	10	77	23
合計	710	142	91	313	164

\* 3/26現在の集計です。

### 芝崎正夫氏(新制六回)が新会長に

#### 城北ラグビー部OB会

##### 総会で決定された新役員

六月十日学園内において、城北ラグビー部のOB会(城北R.O.C.)の総会が開催され、提出議案がすべて可決承認されました。

長年会長を務められていた土尾英夫氏が名誉副会長、新会長に芝崎正夫氏(新制六回)、城北ラグビー部創立時のメンバーの井上繁氏が名誉会長に推挙されました。

また学園ラグビー部の部員数が高校十名、中学十四名の現状なので、OBたちが経験した「一つのボールを追って生きた、素晴らしい仲間との出会の喜び」をうたえて、入部の促進活動をしていきます。

ついでに、九月二日三時から学園グラウンドで三十三名が参加してOB戦を開催しました。最年長の参加者は昭和二十五年卒業の土屋副会長。

試合後、平井先生や現役部員との懇親会を開きました。

#### 平成12年度同窓会収支決算書 (平成12年4月1日～平成13年3月31日)

収入	支出
繰越金 96,726,819	人件費 99,000
	交通費 60,600
平成11年度卒終身会費 (368 × @10,000) 3,680,000	会議費 419,530
平成11年度卒名簿代 (368 × @4,500) 1,656,000	会報発行費 3,707,303
名簿代 (@5,000 × 8) 40,000	慶弔費 82,650
銀行利息 85,440	雑費 21,524
雑費 10,000	
合計 102,198,259	合計 4,390,607
	残合計 97,807,652

#### 平成13年度同窓会予算書案 (平成13年4月1日～平成14年3月31日)

収入	支出
繰越金 97,807,652	人件費 150,000
	交通費 100,000
平成12年度卒終身会費 (385 × @10,000) 3,850,000	会議費 500,000
平成12年度卒名簿代 (385 × @4,500) 1,732,500	総会費 800,000
銀行利息 80,000	名簿改訂版 3,300,000
雑費 20,000	会報発行費 4,200,000
	慶弔費 800,000
	雑費 20,000
合計 103,490,152	合計 9,870,000
	残合計 93,620,152

### 定例総会のお知らせ

日時 六月一日(土) 午後三時より  
場所 城北学園講堂  
議題 平成十三年活動報告  
平成十四年度活動計画  
平成十三年度決算報告  
平成十四年度予算案  
役員改選

なお、当日は現役の先生方をお招きし、旧制二回、新制十回の同窓会を対象にホームカミングを実施します。多数の皆様のご出席をお願いします。

#### 人事異動(退職者)

平成二年七月  
五十嵐幸子 業務  
太田 真澄 事務  
田畑 圭太 事務  
土田 清己 理事  
平成二年三月  
久保田雄一郎 国語科  
芳賀 徹 体育科  
森田 英直 体育科  
松田 隆之 社会科  
林 元子 事務  
渡辺 妙子 業務

平成三年三月  
加藤 功 国語科  
草間 京司 理科  
平成三年七月  
佐藤 実 事務(死去)

平成四年三月  
平野 芳己 国語科  
手塚 廣志 社会科  
須見 半 理科  
石部 孝 理科  
篠崎 慶一 美術科  
吉田 正美 英語科  
佐藤 峰夫 業務

### 《卒業生の本》

「虹色の想い」

(四十九回) 川上 達行 文芸社



高二の「僕」の平板な日常に訪れた「あの」少女との出会いと別れを描いた、若者ならではのひらめきのストーリー。現在、新潟大学医学部に在籍する若十三歳の川上氏の心の作。

#### 「ぼくはパリのお菓子屋さん」

(二十回) 千葉 好男 中央公論新社



城北時代はラグビー部で活躍その後パリ生活三十二年、日本人初のコンクール入賞、パリに菓子店オープン、フランス料理アカデミー会員へと

自らの道を拓いた波瀾万丈の菓子人生を綴る。

#### 「もう一人の将軍」

(八回) 倉田 俊家 自費出版

埼玉県川口市に五百年続く旧家に生まれた筆者が、鞍馬

#### 代表幹事会の開催

昨年五月の総会で、規約の一部改正が行なわれ、各卒業年度の常任幹事から選出される一、二名の代表幹事と会長、副会長、幹事長、副幹事長で構成される代表幹事会が、会長の諮問機関として設置されました。

昨年十二月十五日(土)に第一回の代表幹事会が平成十四年度の総会、事業計画とべ

#### 事務局からのお願い

記事もれ・ミス等の訂正がございましたら、事務局まで、その旨、二報いたただけたら存じます。

※住所変更等について  
住所不明の会員が増えてきてます。卒業後、大学進学・就職・結婚・転勤などによる住所変更が多いようです。事務局では、五年ごとに同窓会名簿を作成しながら、そのついで、不明会員の追跡調査を行ってまいりました。しかし、なかなか連絡がつかないのが現状です。そこで、同窓会名簿に住所変更や

※同窓会投稿について  
同窓会報は卒業生諸兄の会報です。年一回の発行を予定しています。クラス会・サークル・親睦会の連絡・報告などに、大いに紙面を利用して下さい。

#### 《訃報》

上原 一郎(元教諭) 昭和三十九年から一年間、本校の社会科教諭として尽力された。平成十三年三月逝去。

赤坂 冲(元教諭) 平成十三年六月二十日逝去。享年八十一歳。昭和十九年四月に本校就任以来、平成三年三月まで三十五年間にわたって本校の理科教育に専念され貢献された。立教大学専任教授。

福森 三郎(元教諭) 三重県出身。東京教育大学卒業。昭和三十六年四月、城北学園に体育科の教諭として就任。のち、数学科教諭に転任され、進学指導部主任を務められた。平成八年三月城北学園を退任。平成十四年二月十八日、肺腫瘍のため逝去。享年六十九歳。

#### 佐藤 実(事務)

平成十三年七月二十日、肝臓ガンのため逝去。享年七十六歳。昭和三十八年三月に本校を卒業。その後、五十七年七月から城北予備校、六十二年四月からは本校事務職員として勤務。